



## 須川 亜紀子（すがわ あきこ）

横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 教授

専門は、アニメーションや2.5次元舞台などのポピュラー文化論、オーディエンス／ファン研究、ジェンダー論。単著に『少女と魔法—ガールヒーローはいかに受容されたのか』（2013、\*日本アニメーション学会賞2014受賞）、『2.5次元文化論—舞台、キャラクター、ファンダム』（2021）。共著に、Shôjo Across Media (2019), Contents Tourism and Pop Culture Fandom (2020)、Idology: in Transcultural Perspective (2021)、『コンテンツツーリズム』（2021）、War as Entertainment and Contents Tourism in Japan (2021)、共編著に『アニメ研究入門<応用編>』（2018）、『アニメーション文化55のキーワード』（2019）、『ジブリ・アニメーションの文化学』（2022）、編著書にMechademia Second Arc 15:2 特集「2.5D Culture」（2023）など。最新論文は“A 2.5D Approach to the Media Mix: The Potentialities of Fans’ Producership” Mechademia Second Arc 16:1 Marc Steinberg編「特集Media Mix」。その他、各自治体の男女共同参画推進センターなどでアニメとジェンダーに関する講演を行っている。HPは[akikosugawa.2-d.jp](http://akikosugawa.2-d.jp)。



**島田 邦弘(しまだ くにひろ)**  
埼玉県上里町 副町長

昭和60年に埼玉県入庁。神川町副町長（現職派遣）、秩父地域振興センター副所長、観光課長など主に地域振興や観光振興関連の職を長く経験。令和4年7月に埼玉県を退職し、同月から現職に就任。担当者として県観光課に在籍していた際、業務を通じてアニメ「らき☆すた」と出会ったことを契機に、地域資源としてのポップカルチャーの可能性に着目し、以降、イベントの企画・運営に携わるなど公私を問わず県内各地のアニメのまちおこし活動にコミットしている。

[主な委員歴]

- ・秩父アニメツーリズム実行委員会 特別委員
- ・岩手県大槌町観光交流協会 コンテンツビジネス戦略事業部会 特命顧問



**鈴木 則道(すずき のりみち)**  
一般社団法人アニメツーリズム協会  
専務理事/事務局長

1965年東京生まれ。

1994年、メディアワークス（現KADOKAWA）に入社、宣伝部に所属し、同社刊行のゲーム雑誌、コミック、ライトノベルなどの宣伝業務に従事する。宣伝業務の傍ら自社原作コミック、ライトノベルのアニメ化をはじめとしたメディアミックスを推進する。

2013年KADOKAWA IP事業統括本部副統括本部長に就任、自社IPの商品化などの2次利用を推進。

2017年12月、一般社団法人アニメツーリズム協会出向、専務理事に就任、現在に至る。2018年より「訪れてみたい日本のアニメ聖地88」の選定を開始。併せてアニメを通じた地域振興、地方誘客、インバウンドにつながる数々の事例を各地で実施している。